

岐阜県学校農業クラブ連盟 瓢箪イルミネーションQ&A

Q1 なぜ「瓢箪なのか」？岐阜県との関わりは？

- ・瓢箪は人類最古の栽培植物で、水を確保する容器として人類の広がりとともに世界中に広まった**人類の繁栄と関わりの深い植物**であり、オリンピックのアイテムとしてふさわしい。
- ・瓢箪は一つとして同じものではなくその形状は創造性を刺激し、**世界各国で様々な形で活用され愛されている存在**である。
- ・岐阜市の金華山山頂近くに「**千成瓢箪発祥の地**」と呼ばれる豊臣秀吉所縁の場所がある。
- ・養老町にある養老の滝には親孝行の滝「**養老孝子伝説**」がある。老いた父親のために懸命に働いていた木こりの「源丞内(げんじょうない)」が、ある日養老の山奥で見つけた滝の水をひょうたんに汲んだところ、滝の水がお酒に変わり、その酒の力で父親がたちどころに若返ってしまったという逸話。

Q2 活動のきっかけは？

大垣養老高校の瓢箪倶楽部秀吉が農業クラブのプロジェクト学習の取組として、地元の養老の滝にまつわる瓢箪を使った養老町町興しプロジェクトがスタートし、養老改元1300年祭で取り組んだ養老公園での養老の滝瓢箪イルミネーションでは17000人を集客し、高評価をいただく。

2020年の東京オリンピックでも瓢箪イルミネーションの装飾をしたいという思いから、活動の輪が広がり、県内7校の全ての農業高校が参加する壮大なプロジェクトへ発展した。

Q3 活動の目的は？

岐阜県内の全ての農業クラブ員**約2900名**が、日頃の学習を生かし、一つの目標に向かって取り組む活動として、「**環境**」と「**芸術**」を融合させた**瓢箪イルミネーション&グリーンカーテン**をオリンピック会場に設置し、「おもてなし」の心で東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げ応援し、**来場した世界中の人に農業クラブの取組と日本の文化について知ってもらう。**

オリンピック開催国という人生で一度あるかないかのビッグイベントに参加することで、農業クラブ員の活動として、**一生の思い出づくりの機会とする。**

Q4 プロジェクトの概要は？

岐阜県内の全ての農業高校生(約2900人)が参加し、平成29年度より始まった岐阜県学校農業クラブ連盟の取組。

【平成29年度】

- ・瓢箪生徒実行委員会を立ち上げ本プロジェクトをスタート。
- ・瓢箪グリーンカーテンの栽培検証 →栽培装置実現と栽培管理の難しさから断念
- ・オリンピック五輪をイメージした瓢箪イルミの制作。

【平成30年度】

- ・鈴田峠農園が考案し特許を取得した移動式パッションフルーツグリーンカーテンとのコラボ企画がスタート。
→オリンピック会場に設置されたグリーンカーテンに瓢箪イルミの装飾が実現可能になった。
- ・瓢箪イルミネーション用の瓢箪栽培
→約2500個のイルミ用瓢箪を栽培し確保。最終目標は約4000個(4000人分)。
- ・栽培した瓢箪を加工・装飾してイルミネーションを製作し、情報発信とPR活動を始める。
- ・岐阜県農政部にご協力いただき、「清流のぎふ」おもてなし食材披露会にて瓢箪イルミネーションプロジェクトをオリンピック関係者の方へPR。

【平成31年度】

- ・県内にPR用グリーンカーテンを設置し、オリンピック開催時期に合わせて瓢箪イルミネーションを装飾するとともに避暑効果の検証を行い、県内および全国へ向けてPRを行う。
- ・本校HPに瓢箪イルミプロジェクトのPRコーナーを設け、情報を発信しPR活動を行う。
- ・新聞・テレビ等の報道機関に取材していただき、オリンピック開催まで継続的に取り上げてもらう。

Q5 どのような機関と連携しているのか？

- ・JA岐阜信連 イルミPR場所の提供と活動支援金の全面協力
- ・鈴田峠農園有限会社(長崎県大村市中里町452-8) 代表取締役 當麻謙二 様
→パッションフルーツグリーンカーテン装置の提供とプロジェクト活動支援のアドバイザー
- ・岐阜県農政部
→瓢箪イルミプロジェクト活動とPR活動に協力(古田県知事に賛同していただいています)
- ・パッションフルーツ協会 岐阜支部
→パッションフルーツの栽培管理に関わるアドバイザー
- ・国土交通省及び経済産業省の関係者

